



12月議会

とりあげました

大垣市民病院について

12月8日、一般質問が行われました。思いのほか早く進み、1度は2日目の一般質問を行う予定が決まったものの、急遽、やっぱり1日目に全員しようということになりました。2日目の傍聴を予定してらした皆さんには、心からお詫びいたします。市民病院の問題については、たくさんの方からご意見をいただいていますので、この議会を取り上げました。その一部を紹介いたします。

1. 付き添い家族の問題

大垣市民病院の事業概要では、基準看護は2：1と最高基準ですが、この3年間で看護師は53人も減っています。市民の方から「術後1週間はついていて欲しいと要求された」という訴えがありました。最高の配置基準のなか、付き添いを前提とした実態がまだあるのであれば問題です。現在付き添い人はどれだけいますか。

2. 付き添い家族の駐車場

付き添い家族の駐車場はどれだけ確保されていますか。無料駐車場が満車で有料駐車場を利用したら4,000円かかったという方がみえますが、この場合払い戻しはできませんか。

3. 差額ベッド代の問題

事例「集中治療室から出たとき、ナースステーションに近い2人部屋を勧められ、差額ベッド代を請求された。」「こどもが高熱で痙攣をおこし肺炎ということで入院を勧められるが、個室しかないといわれ、有料の個室に入る。」「この状態では自宅に帰すわけにはいかないと緊急入院になったが、部屋がないからと個室を勧められ、後から請求書で9000円の部屋だとわかった。」

厚生労働省は、差額ベッド代を請求できない基準を設けています。①同意書によって、患者さんに確認をとっていない。②「治療上の必要」で移したとき。③病棟管理などの必要から患者の選択ではなく移したとき。3つの事例は、この厚生省の通知に照らして、「病棟管理上」「治療上」の必要で個室に入室させたケースに当てはまるものではありませんか。

4. 退院時の病院対応について

事例「脳梗塞で入院、ようやくリハビリまで漕ぎつけたところで、突然看護師から治療が終了したので「退院」を通告されパニックになってしまった。リハビリだけでは入院できないので次のところを探してと言われる。ソーシャルワーカーにもあまり相談にのってもらえず、あちこちの病院を自分で探し回った。医師からも退院時の説明はなかった。」

患者さんや家族が安心して退院や転院ができるように、退院時の対応をどのように行っているのか、明らかにして下さい。

大垣市民病院の看護師数と病床利用率

年度	H12	H13	H14	H15
看護師 助産師	718	699	679	665
看護部 事務員	113	102	99	95
パート・臨時 看護師	27	18	17	16
一般病床利用率	98.99	96.90	97.22	-

各年度5月1日現在

答弁と今後の課題 市議員・笹田トヨ子

現在、付添い数は55名ということですが、この数は付添い許可申請を出した人の数で、術後の付添いや通いで付添っている人など申請書を出していない人が沢山います。また、駐車料金の払い戻しは「家族か見舞い客か区別が付かず今のところ難しい」という答弁ですが、病棟の詰所で家族付き添い証明書をもろうと無料の病院もあります。

大垣市民病院は急性期治療を行う病院として、入院日数を17日以内を目標としています。しかし、急性期の治療は終わっても、患者さんが在宅で自立した生活ができるまでにはリハビリや介護など様々な問題があるわけで、患者さんや家族が安心して退院や転院ができるよう丁寧な対応が求められます。付添い問題や退院時対応の本当の解決には、何よりも看護職員の増員が重要で、ゆとりを持って患者さんに関わる看護体制が求められます。看護職員の増員については、病院側の前向きな答弁が得られました。尚、安心して在宅療養するには、リハビリや介護また地域医療の連携が大切で、今後もこの病診連携については取り組んでいくつもりです。

